

伴野区振興基本計画

あすの伴野を拓く

～活気ある地域を目指して～

自らつくる地域づくり事業の策定にあたり、区民の皆様方より 184 項目のご意見・ご提案を頂きました。現状と課題を洗い出す中で、これからの地域の目指す方向を次の 5 課題に分類し、具体的方策を示すことと致します。

1.防災対策計画【治山、治水、災害危険箇所、防災対策等】

【現状と課題】

伴野地区は、区有林（伴野生産森林組合）及び虻川以南三区の財産である、本山更生会等の林野を抱えており、茸山の収入もある一方で、高齢化により山林の管理が難しくなり、今後の治山・治水が課題であります。

当地区には、虻川・地蔵ヶ沢川・牛草川・壬生沢川があり、特に地蔵ヶ沢川と牛草川は荒廃が進み、水害発生の危険があります。

また、上井水路の上部には急傾斜地がみられ、また中段には谷が多くあり災害危険箇所としての検討が必要であります。

東海地震強化地域でもあり、防災組織の強化、区民に対する防災意識の高揚、自治会・隣組の情報の共有が不可欠です。有事の避難誘導に際しては、家族・近隣者の安否確認などの助け合いが必要となるため、隣組の皆さんの日頃のお付き合いが益々重要といえます。

また、消防団員の減少と団員確保が困難になり、新たな防災組織の検討が必要であります。日赤奉仕団についても高齢化が進み、役員改選時には大変苦慮されております。

今後、緊急時の対応についても若い方の加入が大きな課題です。

飲料水については、上村水源に見られるように亜硝酸窒素の含有量が多くなり、住民

の、安心・安全な飲料水の確保も課題となっています。

【実行計画】

- ① 急傾斜地及び牛草川（伴野原会所下）、地蔵ヶ沢川(小園柏原線水源地上)の治山工事を村に要請していきます。
- ② 災害危険箇所のマップを専門家（コンサルタント）に調査・作成してもらうよう村に要請していきます。
- ③ 治山・治水を図り、良質な水の確保、災害防止に向けて、山林・里山整備を村に要請していきます。
- ④ 消防団員の確保に向け、各隣組・各自治会の該当者の情報提供を行い、勧誘に協力し、日赤奉仕団についても若い方の入団に向け啓発を行ないます。
- ⑤ 消火栓・防火水槽の現状を把握し、新たに必要な箇所は村に要望していきます。また、消火器具の取扱いを誰でもができるような体制づくりを目指します。
- ⑥ 防災対策として、各隣組・各自治会・区を通して組織を作り、避難訓練を行います。
- ⑦ 伴野区内の誰もが使える場所への、AED(自動体外式助細動器)設置に向け申請していきます。

2.道路交通網計画【地区内幹線道路、生活道路、交通弱者、交通安全等】

【現状と課題】

伴野区には幹線道路として、県道伊那生田飯田線、村道一級路線として竜東一貫道路・福島線・壬生沢線、二級路線として小園柏原線・城見田線があります。

最近では竜東一貫道路の交通量が急増したため、県道伊那生田飯田線が身近な生活道路として利用される傾向にあります。

一方で、福島線から一貫道路へのアクセス道路が無い場合、道路新設既存道路(虻川左岸線、落とし線)の拡幅を含め、多くの要望があります。

また地区内の竜東一貫道路は、直線道路で、速度を上げて走行する車両が目立つ様になってきました。

そのため、安全対策としての信号機や横断歩道の設置など、多くの要望があります。地区内の生活道路についても、最近交通弱者である高齢者の事故が発生しており、高齢者や子どもをはじめ、住民が安心して往来できる環境対策「交通事故に遭わない、起さ

ない」が必要になってきました。

また、中段と下段を結ぶ道路は、急カーブや日陰地が多く、冬季には凍結する危険箇所も多くあります。

【実行計画】

- ① 伴野工業団地と高森の工業団地を結ぶ橋を、天竜川に建設をする様に要望していきます。
- ② 福島線から竜東一貫道路へ直接アクセスできる道路の新設に向け要望していきます。
- ③ 県道伊那生田飯田線から竜東一貫道路に通じる道路、虻川左岸線・落とし線の拡幅に向けて村に要望していきます。
- ④ 北入線の上村1組地籍道路の拡幅を村に申請します。
- ⑤ 源道地線の急カーブ解消のための改良工事を村に申請します。
- ⑥ 穴田線の一貫道路から天恵製菓(株)工場までの拡幅に向け努力します。
- ⑦ 福島線の伴野神社から先の通学路に、歩道の新設を要望していきます。
- ⑧ 穴田線と竜東一貫道路の交差点に、信号機の設置を要望していきます。
- ⑨ 落とし線と竜東一貫道路の交差点、一貫道側に横断歩道の新設を要望していきます。
- ⑩ 県道伊那生田飯田線に段差のない歩道整備を要望していきます。
- ⑪ 駐車場の無い豊丘南霊園に、駐車場の設置を要望していきます。
- ⑫ 高齢者への交通安全指導を実施します。

3. 農林業・商工業対策計画

【荒廃農地、地域農政、放任里山、商工業等】

【現状と課題】

伴野区は、河岸段丘中段の伴野原地域に果樹を中心とした灌漑設備の整った畑作地帯と、下段に県道（伊那生田飯田線）をはさんで本田・新田の水田地帯があります。

城見田線沿い及び竜東一貫道西側には、多様な業種で構成された伴野工業団地を形成しており、県道西側の新田には大手半生菓子会社の工場があります。

近年新たに工業団地線も北側に延長され一貫道東側にも商業施設が進出しました。

村内一の工業地帯となり、農業・工業・住宅が、バランスよく有効に機能する地域に

していくことが必要になってきました。

農業では、従事者の高齢化や後継者不在、鳥獣被害等に起因する耕作放棄地が増加傾向にあります。その結果、荒廃農地が農業地帯に点在し虫食い状態となり、場所によっては山林化が進むなど深刻な状況になりつつあります。

また里山についても放任された竹やぶが各所に見られ、支障木が景観を害しており、地権者だけでは手入れができない状況にあります。

近年、下段の住宅地にまで猪・鹿・ハクビシン等が出没するなど、獣害対策を望む住民の声も大きくなってきております。

上井に近い本田地帯には多数のゲンジボタルが生息し、他地域からの見学者も多く話題になっております。

将来、リニア中央新幹線飯田駅が実現すれば、飯田・下伊那地域は、東京・名古屋の生活圏に組み込まれる地域と予想されます。

その時、この地域の自然環境は最大のセールスポイントになると考えられます。遠くない将来に希望をつなぐため、地域の自然及び祖先から引き継いだ農地を守って行くことも必要となります。

【実行計画】

- ① 竜東一貫道路より西側の工業団地予定区域については、小規模でも将来性が見込める企業の誘致を行政に働きかけ、豊丘村の基盤確立を図ると共に伴野地域の活性化につなげます。
- ② 今後の農業維持対策や遊休農地対策として、農家組合員等による法人組織化などの具体的な検討をまいります。
- ③ 上井道路一帯の山林・竹林等の環境整備を行い、鳥獣との緩衝地帯を設けます。
- ④ 区民会館周辺にホタルの生息しやすい環境を整備し、仮称「ホタルの里 とももの」づくりを目指します。
- ⑤ 猪・鹿・その他の獣害による農作物の被害状況を考えると、その対策については行政と一体となり、取り組んでまいります。

4. 社会福祉計画【地域福祉、交通弱者、ボランティア等】

【現状と課題】

年々高齢化が進み、現在区内の75歳以上の方は、262名（区民全体の18%）となりました。高齢者は健康な方ばかりではなく、介護を受けている方や老々介護をされている方、また介護施設に入所されている方もあり、地域として高齢者の健康管理をはじめ、生きがい対策などの福祉活動の強化が課題であります。

区内のボランティア活動グループにより、高齢者との昼食交流や施設慰問・芸能交流など様々なかたちの活動を行っていますが、高齢者が集え、地域の皆さんと交流する場や機会が少ないのが現状であります。自由にお茶のみが出来るような場所が欲しいとの意見も多く出ています。

村で行っている敬老会の出席者が年々減少していますが、その理由として、板の間に長時間座っていることが辛いとか、もっと近くで開催して欲しいとの要望があります。

また、若い力を生かしたボランティアグループの育成も、今後の地域福祉発展には欠かせないものとなっております。

【実行計画】

- ① 村から人的・金銭的な支援を受け、伴野区民会館を会場に椅子席での敬老会を開催します。運営はボランティアの会等の協力を得ながら、地元の公民館や各種芸能グループの余興も実施していきます。
- ② 社会福祉協議会の『はつらっディサービス』の地域版として、行政の支援を得て高齢者が寄り集れる場所をつくり、地域での実施に向けて検討していきます。
- ③ 高齢化が進む既存のボランティアの会については、若い人の加入を含め、組織強化に向けて取り組みます。
- ④ 緊急時の対応に備えて各隣組単位で、独居の方・高齢者の方・身体障がい者の方・妊婦・乳幼児のいる家庭の状況を把握し、情報を共有します。
- ⑤ 子どもから高齢者まで、幸せに安心して暮らせる地域を目指します。

5. 地域づくり計画

【区民皆参加、コミュニティ、地区内活性化組織等】

少子化と核家族化が進み、大人（高齢者）と子どもが触れ合う機会が少なく、子どもをもつ若い母親との交流も少なくなり、世代間の連携や触れ合いを多くしたり、また、区内の借家・アパート等の住民についても、近隣とのコミュニケーションが図れるよう

な対策を公民館活動についても年々参加者の確保が難しくなり、第4分館役員の尽力により運動会やスポーツ大会が開催されている現状です。自ら進んで参加して頂ける環境づくりが急務と思われます。

地域の支障木の伐採（竹林整備）資材支給工事・里山づくり作業など多くの住民が参加する共働作業の実施は、地域づくりのための効果的な事業と思われます。

豊丘村が推奨している『挨拶運動』は、小・中学校の児童生徒に声かけをしても、挨拶の出来ない子どもたちが多くなって来たとの声も聞かれます。子どもは『国の宝』と言われて久しい訳ですが、子どもたちを地域全体で守り育てていく環境づくりが大切と考えます。

伴野地域の歴史は古く、古代（大和～平安時代）には荘園伴野庄の中心として栄え、中世（鎌倉～戦国時代）には伴野庄の中心地域でありました。将来を担う子どもたちに、地域の歴史や偉人について伝えていくことが必要と思われます。

【実行計画】

- ① 大人（高齢者）のもつ経験、知識・文化等を子どもたちに継承出来る環境づくりを行い、地域の行事・伝統文化の伝承に向けて取り組んでいきます。
- ② 子どもを持つお父さん・お母さん達の交流の場を提供し、世代間の交流や連携の出来る行事を研究していきます。
- ③ 公民館主催のスポーツ大会などについても、自ら進んで参加できる環境づくりに向け、公民館役員と共に取り組んでいきます。
- ④ 借家・アパート住まいの住民が、地域の方々とのコミュニケーションを図り仲間意識をもてる様、伴野区条例改定を行い区への加入の推進を早急に図ります。
- ⑤ 趣味を通じたクラブ・スポーツ活動ができる組織づくり、区内に住む指導者リストを作成するなど『生きがいのもてる生活』の応援をしていきます。
- ⑥ 伴野区の事業推進に対して、仮称「活性化委員会」を立ち上げ、里山整備・竹林整備・資材支給等々、地区内の環境整備に向けて、応援隊の組織づくりを進めます。
- ⑦ 『地区内毎挨拶運動』を進め、大人も子どもも挨拶の響きあう地域に向け、啓発を行ない、積極的に挨拶ができる環境づくりを進めます。
- ⑧ 伴野区の書庫には、区の歴史を知る上で貴重な資料が多く残されています。これらを学識経験者等に依頼し整理・保存を行ない、先人の偉業を後世に残していきます。